サハリンのスキー場も雪不足かなぁ

近年、ロシア連邦サハリン州の州都ユジノサハリンスク市内のスキー場も雪不足により、その対応に苦慮しているとのことです。

（サハリン州スキー学校長からの写真）

十一月二八日「北海道新聞」朝刊の留萌宗谷版に左記の記事が掲載されておりましたので、ご紹介いたします。

留萌スキー連盟は老朽化でスキーリフトが撤去してから、毎年自主的に子供たちのためスノーモービルでスキー場ゲレンデを整備しておりましたが、この度、長年の願いが叶い留萌市が圧雪車を購入し、ゲレンデの効率的な整備に努めるとのことです。

冬は任せろ 重機準備万端

圧雪車を導入

緩斜面整備

子供楽しめる場に

留萌・神居岩スキー場

【留萌】市は28日、神居岩スキー場のゲレンデなどを整備する圧雪車を導入した。これまで圧雪車がなかったため、留萌スキー連盟が自主的にスノーモービルを使って整備し、スキー教室などを開いていた。圧雪車の導入で、効率的にゲレンデ整備ができるようになり、関係者は利用者の拡大を期待している。（吉川新弘）

圧雪車はイタリア・プリノート社製「ハスキー」1台。全長約7m、最大出力は231馬力。車両前部には幅3・8mのブレードを装着する。現在主流の小型圧雪車で、道内ではルスツやニセコなどの多くのスキー場で使われている。圧雪車導入は、同連盟のほか、クロスカントリーなどの訓練を神居岩スキー場で行っている陸上自衛隊留萌駐屯地からも要望されていたため、市が3080万円で購入した。

同スキー場は1981年に開業。2001年に市民スキー場が閉鎖されてからは、市内唯一のスキー場となった。なだらかな斜面が初心者に向くため、小中学校の授業で使われていたが、06年に老朽化のためリフトを廃止。圧雪車も壊れ、08年にスキー場自体も休業した。

子供たちがスキーに親しむ機会が奪われるのを心配したスキー連盟は昨年度から、幅1・8mにつなげた木材をスノーモービルで引く自前の「圧雪車」を作り、ゲレンデを整備。未就学児や小学校低学年児童を対象にスキー教室を開いてきた。林間コースのクロスカントリーの大会や、子供がチューブ滑りなどを楽しむ「雪育デイキャンプ」も開き、市民から好評を得ている。

圧雪車は市から委託を受けた同連盟がゲレンデやコースの整備に使う。同連盟の高田昌昭会長は「これまで2時間かかっていた圧雪作業がかなり楽になる。コロナは心配だが、今季も子供たちが楽しめる冬の企画に取り組みたい」と話す。リフトの代わりに、スノーモービルでゲレンデ中腹まで運び、子供10人乗りのお手製ソリは今後も活用される。

市が神居岩スキー場に導入した圧雪車